

平成30年5月11日

平成30年度病害虫発生予察注意報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：モモせん孔細菌病
2. 対象作物：モモ
3. 対象地域：県北部
4. 発生量：多～甚
5. 発生時期：4月～8月
6. 注意報発表の根拠

モモせん孔細菌病については4月16日付けで病害虫発生予察注意報（第1号）を発表したところであるが、その後も以下のとおり多発傾向が継続している。

- 1) 5月1日の巡回調査における発病葉（写真1）の発生園率は100%で、5月中旬、6月中旬、7月中旬の平年値に比べ高かった（表1）。
- 2) 発病果実（写真2）の発生園率は30%で、6月中旬の平年値と同等であった（表1）。
- 3) 発病葉率は6.4%で、5月中旬、6月中旬の平年値に比べ高かった（表1）。
- 4) 本県では4月下旬～5月中旬の累積降水量が多いほど7月の発病果実が多発する（図1）。本年の4月下旬からの累積降水量は、5月8日現在ですでに159.5mmに達している。
- 5) すでに、果実発病が多発している園地が認められている。



写真1 モモせん孔細菌病の発病葉



写真2 モモせん孔細菌病の発病果実

表1 モモせん孔細菌病の発生状況

	調査時期			
	本年 5月1日	5月中旬	6月中旬	7月中旬
葉の発生園率(%)	100	43	62	64
果実の発生園率(%)	30	—	33	45
発病葉率(%)	6.4	1.8	3.3	8.2
発病果率(%)	0.7	—	3.0	4.9

注) 調査園数：10園

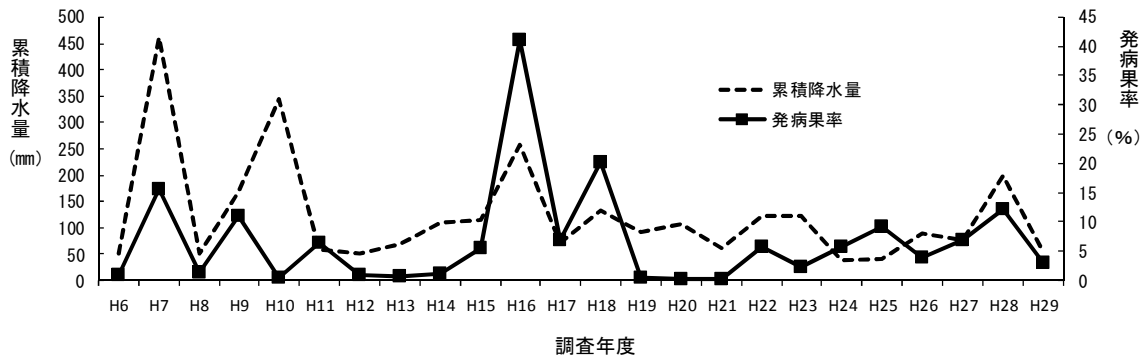


図1 累積降水量とモモせん孔細菌病による発病果率の年次推移

注) 降水量の観測地点：和歌山市（和歌山地方気象台）

累積降水量：4月下旬～5月中旬、発病果率：7月中旬

平成10年は多発により残った果実が限られた。

7. 防除上の注意事項

- 1) 天気予報をチェックしながら、降雨前の予防散布を実施する。
- 2) 新たな感染を防止するため、伝染源となる発病枝（枯れ枝）、発病葉が多い部分、発病果の除去を徹底する。
- 3) 風雨による果実への感染を防止するため、袋掛けを速やかに行う。
- 4) 発病葉は早期落葉する恐れがあるため、袋掛け後も薬剤散布を徹底する。
- 5) 破損している防風ネットの補修や防風樹の管理に努める。

担当：農作物病害虫防除所 紀の川駐在
間佐古、弘岡 電話：0736(73)2274